

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2374900237		
法人名	有限会社 ゆりかご		
事業所名	グループホームゆりかご ユニット1		
所在地	愛知県日進市北新町南鶯514番地1		
自己評価作成日	平成25年7月18日	評価結果市町村受理日	平成25年9月2日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;Jigvosyo_Cd=2374900237-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kani=true&amp;Jigvosyo_Cd=2374900237-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人 サークル・福寿草		
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号		
訪問調査日	平成25年8月6日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

依存型生活から主体的生活への変換、それらの生活を実現に向けたアプローチの一つとして、くもん学習を2007年5月導入し実施継続してまいりました。その効果は、笑顔が溢れ自信に満ち充実した生活が送られています。今私たちは、コミュニケーション機能として「アクティビティ」の活用実践しています。アクティビティプログラムを実践する事により、五感を刺激し、脳の活性化や心身の機能維持、さらにその人の楽しみや生きがい、そしてQOLの向上につながるなど発見もあります。私たちは、ホームで日常生活を営まれている方々に対し、これまでの人生や生き方、価値観を尊重し、日常の生活をその人らしく暮らしていけるように本人や家族に寄り添いサポートを行っています。以上、前年度の取り組みを継続してまいります。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

ホームは、学生寮であった建物を改装しており、外見はその雰囲気を残しているが、リビングや居室については、利用者が過ごしやすく、必要な改装を行っている。ホームでは、家族がホームに可能な限り関わってもらえるように、家族会の充実を目指しており、毎年度毎に年間計画を立て、計画に基づきながら、家族が中心となって行事の企画や運営を行うことができる取り組みを行っている。さらに、ホームでは、年4回の避難訓練を実施しており、職員が緊急時に迅速に対応できるように必要な体制を整えていることや、毎週木曜日と時間を決めて、職員の勉強会を実施しており、職員の資質向上にも取り組んでいる。また、利用者が安心してホームで過ごすことができるように、一定のルールと安全にも配慮しながら、飲酒等も楽しめる取り組みも行っている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者がその人らしい人生を送れるようにその方の生活を支える事を理念に挙げスタッフ一同理解している。	利用者のこれまでの暮らしの継続になるように、ホームでの生活を通じて「ここが良い」と思ってもらえるような支援を目指しており、職員とも話し合う機会をつくっている。理念を玄関に掲示し、訪問者にも分かるようにしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	散歩で挨拶を交わしたり、花や野菜など分けて載っている。イベント案内は回覧板など地域役員の方にお願ひし、消防訓練・夏祭りなど地域の方にも参加を願ひ又地域からの招待など頂き良好な交流がある。	地域の盆踊り等の行事に参加したり、ホームの行事に地域の方が参加する相互の交流がある。さらに、ホーム便りを回覧板に載せてもらひ、地域の方にホームでの暮らしを知ってもらうように取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域へのホーム活動報告として、ゆりかご家族会発行するゆりかご新聞を回覧板にて配布し発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月に運営推進会議開催し、家族会会長を議長とし区長・地域住民・包括支援センター職員・市職員・ホーム代表らと意見交換がなされ、毎回予定時間を過ぎる程の充実した会議を行われ、助言などには速やかに実践している。	会議では、日々の生活や行事での様子を写真も活用しながら報告しており、出席者にホームの理解をしてもらえるように取り組んでいる。また、会議の内容を職員にも伝達し、ホームの運営につながるように取り組んでいる。	ホームでは、家族が参加する取り組みを続けている。会議がより有意義なものになるように、話し合われた内容を家族に報告しながら、相互の理解につながっていくことを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中学校職場体験学習などの受入、随時市担当職員への相談及び指導を受けるなどして取り組んでいる。	生活保護を利用している方を受け入れていることもあり、市担当者との情報交換の機会が得られている。また、市で行われる行事の際には、利用者の作品を出展しており、市の事業の協力も行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	安全に生活を送って頂く為、かつ身体拘束をしないよう、勉強会でも取り上げ、スタッフ全員が理解を深めている。	玄関の施錠を行っておらず、職員の勉強会等の機会もつくり、身体拘束のない生活への理解を深めるように取り組んでいる。また、マニュアル等の資料をいつでも見る事ができるようにしており、日常的に意識するように努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ホーム内での勉強会及び研修にも参加し、虐待防止意識高揚を図りに日々努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、利用されている人がみえ、管理者と係の担当者との連絡もスムーズに行われている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所前にご本人ご家族が当ホームを見学され、納得できるよう説明をしている。また、ご本人がご訪問出来ない時は、こちらから家庭へ訪問し、面接をしてホーム内でも検討して相互理解をして入所して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	当ホームでは、家族会が発足されており、家族の要望、意見交換なども行っている。また、家族会発行する新聞などでも機会を設けそれらを運営に反映させている。	ホームでは、年間計画に基づいて、家族会が中心となって行事を行う等、家族がホームに訪問する機会をつくっている。また、訪問することが難しい方には、ホーム便りに家族からの返信欄を設けることで、意見や要望の吸収に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	改善及び提案など職員の意見として代表者・管理者に提言するなどしている。ミーティングなど送り時に管理者も参加しスタッフの意見を聞く場を作っている。	管理者でもある代表者は、職員が一番良いと思った支援を行うことができるように、職員自身でも考えてもらうように努めている。その上で、日常的に意見等を聞いたり、会議等で話し合った内容を通じて、職員からの意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正規・非正規労働者をバランス良く雇用し、各々主体性を持って従事できるよう整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内で週一回、勉強会を開催し、テーマは職員自ら懸案となっている課題等々について自主研修を実施し、社外研修も人数が許す限り順々に行っていて職員は報告書を提出している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	愛知県グループホーム連絡協議会などに参加し同業者と交流を図りネットワーク作り等々、勉強会、相互訪問等の活動を通じてサービスの質を向上させていく取り組みをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス導入時期において、ホームへの見学を入居者ご本人並びにご家族にして頂き、不安な心に配慮し、観察する機会・時間を提供するなどした関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス導入段階に於いては、ご家族の要望などを聞き、「共にある」ということをお伝えし関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入段階に於いては、ご本人並びにご家族が困惑し、不安の中での孤独感にさいなまれている状況を鑑み安心した生活が営まれるよう支援に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	今まで普通に生活し、様々な体験をしてきた方々に、夫々の人生が有りプライドが有ります。そのご本人が背負っている人生をわかろうとする姿勢で話を聞く関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会、外出、外泊、通院への協力、イベントへの参加が継続できるよう毎月の家族への通信等(ゆりかご通信)を利用し働きかけをしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族のご面会、ご友人のご面会や又こちらから住んでいた地域へ外出、外泊をして、友人達とコーヒーを飲んだり、行きつけの理美容院へと、職員並びにご家族の協力を得ながら継続が出来るよう努めている。	ホームでは、馴染みのある方との面会等の機会がつくられており、ホームの居室や外に出たりしながら、一緒に過ごしてもらう時間をつくっている。また、外泊の機会もあり、行きつけの美容院や家族と墓参りに行く機会も得られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は利用者同士間に入り、孤立しないようにまた、利用者間の互助精神が図れるようアクティビティケアを用いて支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(終了)が終了しても家族会の役員として参加されている。また、イベントの他、懇親会などへの参加呼び掛けを行って、相談助言など関係を保っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ライフレビューなどを促し、今までの人生を振り返り、評価しその意味を探求するなどして把握に努め検討している。	職員は、利用者の表情やしぐさ等を見逃さないように、必要に応じてセンター方式も活用しながら、利用者の情報収集に取り組んでいる。それらの情報を職員間で話し合う機会をつくりながら、情報の共有に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	回想を促し、人生の発達段階に沿った聞き取りを行うなど、一人ひとりの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	事前面接やニーズアセスメントを進め、個性の再発見や社会的交流の力など、個人のフォローに努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	アセスメント・カンファレンス・モニタリングなど機会を十分に活用し基礎的情報の拡大をもってケアプランに繋げている。	職員は、介護計画の内容について、日々の様子をみながら毎月モニタリングを実施しており、介護保険の認定期間にも合わせながら見直しにつなげている。実際に利用者の状態に変化があった際には、随時内容の見直しを実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録を細かく解り易く記録し情報を共有している。プランに沿って支援が出来るようカルテの中身の重視にも検討している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームとしての機能を最大限引き出した支援として取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、地域の方々にも認知され、四季折々の行事に双方向参加が実現し、近隣の散歩など住人の方がたの声掛けなど挨拶が交わされ地域に馴染んだ関係が構築出来つつある。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホーム嘱託医契約医師に週1度の往診を受けている。ご本人の希望で他のこれまでの医療機関を希望される方はご家族の協力も得て専門医へ通院をして頂いている。	ホームには協力医が複数あり、協力医による定期的な往診と24時間の支援体制がつけられている。通院時にはホームから必要な情報提供がなされ、通院は基本家族による対応であるが、状況によってはホームでも対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の異変が見られた時や皮膚の状態とか処置等気付いた時、掛り付け医、ナースに報告し、急ぐ場合は電話にて連絡し対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム嘱託医契約医師による往診を行って頂いている。生活状況及び健康状態については随時実施しご利用者の容態変化に際しても入院・通院出来るよう連携をとっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合、基本的には医療機関への入院を依頼している。	ホームでは、利用者が状態に応じて家族との話し合いを重ねており、意向や希望にも応じながら、ホームでの看取りを行った実績もある。職員についても、重度化への対応について話し合う機会をつくるように取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故や急変時に備えてスタッフ全員、勉強会を行ったり知識の習得に心掛けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に4回消防訓練を実施し、避難経路確認・初期消火等設備機器などの取り扱いについて体験する。避難誘導時に於いては入居者は防災頭巾を着用するなどして訓練を行っている。訓練時は、家族会役員は全員参加し近隣住人の参加もある。	ホームでは、年4回の避難訓練を実施し、職員間で確認を行うとともに、訓練時に地域の方や家族会の役員の参加が得られており、ホームの現状への理解を深めてもらっている。また、非常時の水や食料等の備蓄も確保している。	ホーム建物に対応した訓練の実施を継続しながら、職員間でホーム内における備蓄品の状況について、情報の共有にも期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	接遇をもってご本人のプライバシーに配慮しつつ、ケア等を行っている。	職員は、利用者一人ひとりに合わせた声かけを行うように心掛けており、失禁時等の際にも利用者に安心してもらえるように努めている。また、入浴時や排泄時にも別の方が入らないように羞恥心やプライバシーにも配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が自己の意思を表に出し、出来るように個人に合った話し方に注意し思いや希望が聞けるように配慮している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合が、優先しないようになるべく個々のペースに合わせ支援できるように努めている。具体的には、朝起きて今日何をして一日を有意義に過ごしたいかを利用者自身パネルに掲示している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望を取り入れ、美容院、理容院などへの外出支援を行っている。毎日、化粧をされている人もみえますので継続出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ご本人の好物などを聞き、食べやすい形で調理をして満足して食べて頂けるよう献立やおやつなど、楽しみのある、手作りの物の工夫。食事の準備、片付けが出来る人は一緒に行っている。自ら進んで参加して下さる人もいます。	ホームでは、毎日、食材の買い物に行くように取り組んでおり、利用者も一緒に行くこともある。職員も一緒に食卓に着いて食事を行っていることや、おやつ作りを楽しむこともある。また、状態に合わせたトロミ食や刻み食にも対応している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食材には緑黄野菜、豆類、魚類等を多くメニューに取り入れるなど栄養バランスを考慮した食事を提供し、個々の水分、食事摂取量が把握できるようにカルテの利用を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後、歯磨きが出来る人は習慣化となっており、支援が必要な人はスタッフが介助して行い、ベットサイドで必要な人は個々に合った口腔ケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンに合わせ、自立出来るようにトイレ誘導への援助を行っている。	職員間で利用者の状態を把握しながら声かけ等を検討しており、実際にオムツからパンツに改善した事例もある。また、ホームでは利用者が状況に合わせて使用できるように、全ての居室にポータブルトイレを用意している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々、排便の状況を確認し、個々の排泄パターンや食事量摂取量を把握し内服の服用も行っている。また、薬だけに頼らない食物繊維を多く取り入れた食事に行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日、時間帯はホーム側の都合により行っている。個々の希望に沿って入浴が望ましいと思われるが、現状厳しい面も考えられる。	入浴は基本週3回、午後の時間に行っている。入浴を拒む方には声かけを工夫したり、足浴を行うなど、気持ち良く入ってもらえるように努めている。また、重度化に対応した2人体制での実施や、季節に合わせた菖蒲や柚子の楽しみも行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活パターンも違うので、体調を見ながら休息出来るように心掛けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬は何時でも見れるように保管されており、スタッフ全員把握出来るようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	張りのある生活が送れるようにその人の出来る部分への支援を広げたり生活歴を活かし編み物その他への楽しみが活かせるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その日の希望に沿って、支援が出来るよう工夫をしている。ご家族の協力を得て、外出等の支援協力を得ている。	ホームでは、近隣の散歩やコンビニまで買い物に出掛けたり、ホーム駐車場で体操を行っており、日常的に外に出る時間をつくっている。また、ホームから離れた場所にある畑へ自動車を出かけて畑作業をしたり、職員と温泉に行く機会もある。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の所持は個々の管理としている。使うことの支援については理美容院等への外出支援はスタッフと一緒にしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	通信手段は電話が主である、ダイヤル等操作出来ない人には代わってスタッフが支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に合わせた飾り付けを工夫している。光・温度・湿度にも毎日注意を払い環境整備を行っている。	ホームでは、限られた空間でも過ごすことができるようにリビングを改装したり、季節を感じることができる飾りつけも行っている。また、ホーム内に設置されている昇降機で1階と2階を移動して過ごすこともできるようにしている。	学生寮の改装であることで、トイレ等が高齢者が生活しやすい環境ではないこともあり、現状の利用者の状態に合わなくなっている点がある。今後に向けた必要な取り組みに期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアーにソファを置いて、利用者が寛げる空間造りをしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の習慣となっているもの、寝具・枕など使い慣れた物の持ち込みをしてもらい居心地よく過ごせるようにしている。	利用者や家族の希望にも合わせながら、テレビや冷蔵庫も持ち込んでいる方もあり、その人らしい居室づくりを行っている。また、家族の写真や馴染みの物を飾っている方もあり、利用者が安心して過ごしてもらえるように努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	2階建てなので2階にはなるべく昇降式エレベータを使用し移動がスムーズな人や階段の昇降が出来る人に住んで頂いて安全に生活が送れるよう考慮している。		

(別紙4(2))

事業所名 グループホームゆりかご

## 目標達成計画

作成日: 平成 25年 8月 28日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	家族会役員構成の会長はOB(前会長)留任にて運営されている。	OBの方々は支援サポートに就いて頂くなど、現家族の中から選任して行きたい。	現入居者家族の理解を頂く為、OB、地域交流等の機会を増やすなど、参加を求める。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。